

99年ヴェネチア国際映画祭正式招待
99年東京国際映画祭最優秀芸術貢献賞受賞

ルナ・パパ LUNA PAPA



月夜の恋に、未来を宿した。

監督=パフティヤル・フドイナザーロフ

主演=モーリッツ・ブライプトロイ(『ラン・ロー・ラン』)/チュルバン・ハマトヴァ

配給=ユーロスペース

ルナ・パパ



99年ヴェネチア国際映画祭正式招待

99年東京国際映画祭最優秀芸術貢献賞受賞

監督＝バフティヤル・フドイナザーロフ

主演＝モーリッツ・ブライプトロイ(『ラン・ローラ・ラン』)

チュルパン・ハマトヴァ

1999年 ドイツ・オーストリア・日本合作 1時間47分 配給＝ユーロスペース

青い月の夜、少女は“勇気”を宿した…



♥ある月の夜、少女はアリスのように暗闇から転げ落ちて、赤ちゃんを宿した。とまどい、好奇の目、さげすみ、それゆえに深まる親子の情愛。その日から、彼女の愛と勇気と戦いの日が始まるのだった。お腹に宿したのは他でもない、彼女自身の未来そのものだったから……。

♥少女の名はマムラカト。女優を夢見る17歳の少女。戦争で後遺症を残した兄ナスレディンと厳格な父と共に、タジキスタンの湖を臨む美しい村ファル・フォルに住む。そんなある晩彼女は、暗闇の中から声を掛けられた俳優を名乗る男に誘惑され、妊娠してしまう。しかし男は次の日には忽然と姿を消す。古いきまりや慣習が支配する村のなかで、つらくも勇気と自尊心で乗りきろうとするマムラカトは、父と兄と共に男を探す旅に出、やがて彼女は愛を探しあててののだが…。

♥突然の誘惑、妊娠、厳格な父の激怒、村人の残酷な言動、そして出会いと愛。やがてすべてを手に入れたマムラカトに訪れる再度の試練。そんなつらさの中でもいきいきと人生を慈しみ、あるときは自分をふるいたせながら生きるマムラカトは、その名前が意味する“国家”を象徴するように、



たくましく美しくそして軽々と時代を乗り越えて行く。一方、アフガン戦争の後遺症を負って傷つきながらも必死に生きる兄ナスレディンの姿は、傷つきながらも再生しようとする中央アジアの国々の現状を象徴する存在なのかもしれない。また登場するロシア人の操縦士こそが、ちいさな国々をがさつに貶める国の象徴そのものなのだろう。不確実な世界の中でただひとり確実な生を歩むマムラカト。彼女の存在は、だれも汚せない月が放つ光のごとく美しく輝く。

シャガールの絵画のような土地で



♥地球の果ての地、美しい幻影がたち上がるように存在する、まるでシャガールの絵画のようなちいさな村での、緩やかな愛のおとぎばなし。映画のそんな表情とは裏腹に、現実の土地タジキスタンは冷戦終了後、内戦の悲劇が横行する場所となってしまった。日本において中央アジアがクローズアップされたのも、皮肉にも秋野豊氏射殺事件(タジキスタン)、日本人技師人質事件(キルギス)といったさなきらい事件からだ。その暗闇の中でスタッフ200名が結集しての厳しい撮影現場。撮影途中何度も中断を余儀なくさせた現実、映画の美しさからは予測できない。タジキスタンとウズベキスタン、キルギスの国境で撮影は敢行されているものの、現実には存在しない架空の町が、現実の残酷さを裏切るように美しい町として立ちあがってくることの奇跡。もちろん戦車やゲリラや紛争も映画から見え隠れるが、マムラカトの勇気の裏でその存在は影薄くなびくだけだ。

豊かで感動的な愛のファンタジー



♥監督はバフティヤル・フドイナザーロフ。長篇第3作目にあたるのが、本作品『ルナ・パパ』だ。デビュー作『少年、機関車に乗る』(91)でセンセーショナルなデビューを果たし、全世界から暖かく向かい入れられたこの監督は、2作品目の『コシュ・バ・コシュ——恋はロープウェイに乗って』(93)でヴェネチア国際映画祭銀獅子賞を見事受賞した快挙を持つ、若き監督だ。



♥マムラカトを演じたのは、ロシアの舞台などで活躍し、近年では映画俳優としてのキャリアも築いているチュルパン・ハマトヴァ。この強い存在感がなければ映画は成功しなかったとまで監督に言わしめた彼女の演技力は、これからも注目に値する存在だ。そして象徴的な存在の兄のナスレディンを演じたのは、昨年『ラン・ローラ・ラン』でローラの恋人マニを演じたモーリッツ・ブライプトロイ。『ラン・ローラ・ラン』に続くこの作品の世界的な評価により、ヨーロッパはもとよりハリウッドからも出演のオファーがあるという、いまもっとも注目の俳優。才能あるスタッフとキャストによってかなえられた、豊かで感動的な愛のファンタジーの誕生である。

不思議、すてき、美しい。世界中で愛されたハッピーな愛のファンタジー

今夏、待望のロードショー

(上映日程・時間など、詳細は劇場までお問い合わせ下さい)

心齋橋アメリカ村 BIG STEP 4F
パラダイスシネマ
06(6282)1460

♥前売鑑賞券¥1500好評発売中!!♥ 劇場窓口、市内プレイガイドやチケットぴあ、ローソンなどでお求め下さい。